

図書 紹介

フードディフェンス

－従業員満足度による食品事件予防－

編著者：角野久史(株角野品質管理研究所)

発行：株日科技連出版社／〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-15-5／

電話 03-5379-1244／A5判／150頁／価格 2400円（税別）／2014年11月29日発行

フードディフェンスとは、食品への意図的な異物の混入に対する安全管理を目的としたもので、原料調達から販売までのすべての段階において、食品への故意に異物が混入しないように防止又は監視することである。

本書は、フードディフェンスを食品衛生7Sの「躰」を用いて従業員満足度に重点をおいて食品事件の予防対策を具体的に解説したもので、実践例も紹介されており、タイムリーでわかりやすい内容となっている。

執筆者は、編者ほか、猪野祐二(アサヒフーズ株)、金山民生(東洋産業株)、奥田貢司(株帝装化成)、猫西健太郎(猫西経営労務サポート)、坂下琢治(LRQA ジャパン)、広田鉄磨(ネスレ日本株)、平田啓恵(愛麺株)及び花野章二(株あわしま堂)の食品安全ネットワーク所属の諸氏であり、以下の6章から構成されている。

第1章 食品への意図的な有害物質混入事件

第2章 フードディフェンスと食品衛生7S

第3章 「躰」で防ぐ食品事故

第4章 フードディフェンスと労務管理

第5章 各種国際規格とフードディフェンス

第6章 実践事例の紹介

サブタイトルを見ていくと、第1章は、冷凍餃子への農薬混入無事件(2007年～2008年)／冷凍食品への農薬混入事件(2013年)で、それぞれの事件の概要、企業でおこなわれるべきフードディフェンスについて記述されており、自己の存在が社会に帰属していると認められることが一番のフードディフェンス対策であると述べている。第2章は、食品衛生7Sの概要／食品衛生7Sの効果と強さで、食品衛生7Sがフードディフェンスの土台であることを強調している。ただ、トップの取り組みや全員参加の例の記載は、菓子会社の例を除いて一般的なコメントばかりでその会社自身の取り組み

み例にはなっていない。第3章は、日本人の性格と価値観／食品衛生7Sにおける「躰」の意義／「躰」から期待できる幅広い効果で、わが国の国民性としての人間の信頼関係を前提とした性善説から食品衛生7Sの「躰」によってフードディフェンス対策の効果強調する主旨になっている。4章は、本章における問題意識／法令を守る企業と守らない企業、関連する従業員の問題、コミュニケーション、モチベーション(動機づけ、やる気)／従業員満足度が顧客満足度に結びつくで、従業員満足度や労務管理への取り組みがフードディフェンス対策につながると述べている。第5章は、FSSC22000／PAS96／SQFコード／その他の規格・基準で、国際規格についてフードディフェンス対策がわかりやすく纏められている。第6章は、ネスレ日本(株)におけるフードディフェンスの取り組み／愛麺(株)におけるフードディフェンスの取り組み／(株)あわしま堂におけるフードディフェンスの取り組みで、ネスレ日本(株)は、フードディフェンスの今後やあり方に言及しているが、いずれも日本的な取り組み事例となっている。

日本でも2013年以降、フードディフェンス対策を講じる必要性に迫られているが、組織内には悪意を持った人間がないと言う性善説に基づいての対応が依然として主流である。そのような対応では、結果的に従業員の管理・監視が疎かになったり、給与体系の変更によって内部に不満を持った従業員を発生させてしまうことになる。HACCPやISO22000では性悪説をもとに組み立てられたシステムを導入してきたが、そのベースとなるフードディフェンスは、本書でも性善説を主体とした解説となっている。人事管理が大変だし、カメラは監視だし、費用も多くかかるが、やはりマニュアルを作成し、記録を残し、手や目の届かないところはカメラで監視するなど性悪説での取組が先決ではないだろうか。

本書は、一般的衛生管理の「食品衛生7S」の「躰」による従業員満足度に特化したフードディフェンスへの取り組みには敬意を表すが、性善説を重視した取り組みの紹介に終始した内容になっている。フードディフェンスの取り組みに当たっては、ハード対策とソフト対策のバランスが必要であろう(学会事務局)。